新春対談 文化の息づく大阪に

鳥越　信さん（児童文学研究家）◆ 平井　賢治執行委員長

橋下知事は、大幅な人件費の削減、府民施策の切捨てなど「大阪維新プログラム案」で府民・職員生活に大ナタを振るう「独裁的」な府政運営を進めています。しかし9月府議会では、国際児童文学館の現地存続を求める請願が全会一致で採択されるなど、府民、労働組合などが共同した運動の広がりが橋下「行革」を跳ね返す可能性を示しました。

今回、国際児童文学館の「産みの親」鳥越信さんと平井委員長に国際児童文学館の役割、橋下「行革」との闘い、展望など対談していただきました。

国際児童文学館の成り立ちは

平井　橋下知事が財政再建プログラム案を出して府民・職員の生活が大変な状況になっています。府職労は、府民と職員の生活を守る立場から橋下「行革」の撤回を求め、取り組みを進めています。廃止・縮小・移転が言われている府立の文化・スポーツ施設についても「府立の施設と文化を考える府民の会」を立ち上げ取り組みを進めています。

鳥越先生が12万点のコレクションを寄贈された国際児童文学館は、中央図書館への移転が言われていますが、まず国際児童文学館の成り立ちなどについてお話し願えませんか。

鳥越　自分自身の勉強のために子どもの本を買い集めていたら、いつの間にかコレクションといわれるほどに成長していました（笑）。

すると全国から大学生が卒業論文のため私の家を訪ねてくるようになりました。どうして私の家に来るのか聞くと、国会図書館に行っても資料がなく、どうしたらいいのか国会図書館の人に相談すると「鳥越さんが資料を持っているからそこへ行きなさい」と。

平井　それは大変ですね。家にいてもゆっくりできないですね。

鳥越　個人では対応しきれない状態になったので、公的な資料情報センターの立ち上げを全国的に公募をかけたところ新聞が大きく取り上げたので、全国30ヶ所以上から問い合わせがあり、最終的には5ヶ所が正式に手を上げました。そして大阪府にお願いすることになりました。

平井　大阪府も当時はやる気があったのですね。

「来館者が少ない」おかしな話

鳥越　橋下知事は国際児童文学館をつぶす理由に「来館者が少ない」と言っていますが、これはおかしな話です。

平井　どういうことですか。

鳥越　国際児童文学館がある万博公園はへんぴなところです。当時候補地として、万博公園、泉北ニュータウン、市内大学跡地がありましたが、来館者の数で

鳥越 ぜひ残したい大阪国際児童文学館

運動を大きく広げ施設と文化守りたい

平井

考えたら市内の大学跡地になります。それを一番へんぴなところにした理由は、国際児童文学館を情報の発信基地と位置づけ、利用者に対して正確で精密で豊富な情報を提供する施設だから来館者のことは全く考えていませんでした。そして、どうしてもかかせないのが空間です。

平井　資料を保存するスペースですね。

鳥越　そうです。利用者に対して、正確で精密で豊富な情報を提供しようとしたら、少なくとも日本で明治以来出版された子ども向けの雑誌・本を全部持っていなければなりません。私が持っていた12万点では程遠い、将来集まってくるであろう膨大な資料が入れられるだけの空間がいる、そのためには万博は絶好の場所だったのです。そして、集められた資料を全部読みこんで、利用者からのリクエストにちゃんと応えられるため研究機関的な体制、専門のスタッフが必要です。

中央図書館に移転するのは空間的に無理であり、専門スタッフをどうするのかも全くわからず移転することに私は絶対に反対です。

平井　大阪府は児童文学館を図書館と同じだと考えています。研究機関として位置づけてはいませんね。

鳥越　国際児童文学館をパッとみたら本が並んでいるので、確かに図書館と同じように感じます。図書館や博物館などは法律があり、法律によって保護されている面、管理されている面があります。しかし国際児童文学館は図書館法とはまったく関係がない施設です。

平井　ホームページを見ると、資料センター、情報センター、国際的な研究センターと3つの機能があり、国際的に評価をされていることがわかります。その役割を果たしていけるように大阪府が予算をつけることが求められていると思います。

平井賢治執行委員長

「あれだけ議論?」誰と議論したのだろう

鳥越　国際児童文学館を「隠し撮り」した時、知事は「あれだけ議論したのに職員の働き振りが変わらない」と言いましたが、いったい知事は誰と議論したのか？館長と20分ほど話をしただけで、理事会とも話をしていない。当事者とまったく話をせずに「あれだけ議論した」と言われたくない。

平井　ほとんどの施設関係者と議論はしていないと思います。府議会でも関係者の声を聞くべきと質問がされましたが、知事は視察しただけで判断をしているようです。

鳥越　国際児童文学館がへんぴなところに建っている理由も知事は知らないのでしょう。当事者、関心のある人を集めて、公開討論のように議論をしてほしい。

平井　私も関係者の意見を聞く場を設けるべきだと思います。

鳥越　橋下知事は、廃止・移転を考えていますが、他に選択肢はないのでしょうか。もともと、公募してできた施設で、それ以後も多くの団体・個人から資料が寄贈されています。府の予算で購入した資料もありますが大多数は寄贈されたものです。そんな施設をつぶすのであれば、もう一回公募すべきではないでしょうか。いろんな選択肢があると思います。みんなで知恵を出し合える場を設けて欲しい。

平井　国際児童文学館は大阪府の貴重な財産だと思います。だから「お金がない」という理由でなくしてしまうのはあってはならないことだと考えます。

イルミネーションの発想 理解できない

平井　大阪府が推進しようとしている大型開発は大きな無駄です。例えば阪神高速の淀川左岸線の事業費3500億円は無駄そのものです。その3500億円を府民施策にまわすなど、お金をつかう方向を別に向けるだけで、府民生活、文化・スポーツ施設などが守られます。

鳥越　これまで湯水のごとく税金を使っていると感じるのは関空関係です。かなり使っているでしょう。それと、御堂筋でイルミネーションをやる発想は理解できません。

「文化」がなくなる大阪府

平井　ミュージアム構想が出されていますが、文化振興会議の会長が「将来ビジョン大阪」の目標には「文化」という言葉がひとつもないと嘆いていました。文化をミュージアム構想に衣替えさせようという流れに危惧を感じています。

鳥越　私は、知事が文化とか芸術を目の敵にしているように感じますが、子ども時代にトラウマでもあるのでしょうか？

平井　景観が文化という言い方を知事はしています。大阪に根付いた文化を守るためにお金を使うのは当然必要なことだと思います。

鳥越　文化、芸術はお金がかかるものだと思います。

平井　知事はなぜ文化・芸術を大事にしないのでしょう。

鳥越　どんな知事さんも口では「文化は大事だ」と言いますが…。

平井　文化の施策に変更がある場合は、文化振興会議へ諮問することになっています。大阪維新プログラム案で予算が大幅に削ったのは文化施策の変更です。「府立の施設と文化を考える会」としても振興会議の委員に削減された施設の復活について議論することを要請しています。委員の方からも予算が削られることに疑問の声がでています。

鳥越　知事の根本的な考え方に問題があると思います。ほかの選択肢も真剣に考えてほしい。公募や寄贈した人に資料を返すこともひとつの選択肢ではないか。いろんな知恵をだしあって考える発想がなぜないのか・理解できない。

請願採択 大きな運動の成果

平井　昨年9月府議会で「国際児童文学館の現地存続を求める請願」が全会一致で採択されました。

鳥越　しかし知事は「請願を尊重するが方針は変えない」と。

平井　知事は移転費の予算を計上するなど、議会を軽視し、あくまで移転させる態度をとっています。しかし、主要な会派が紹介議員になって、全会派が請願に賛成したことは、大きな運動の成果です。今後とも運動を大きく広げて児童文学館の存続をはじめ施設と文化を守るため全力をあげたいと思います。

抱負は「死んでも死にきれない」

平井　最後になりますが、今年の先生の抱負をお聞かせ下さい。

鳥越　私は今が旬の後期高齢者の79歳です。6年前、ガンの手術をして今も治療中です。食道ガン、前立腺ガンと二つのガンで二丁拳銃と言っています（笑）。本当だったら老後をのんびり過ごす年齢ですが、こんな問題がおこったらのんびりしていられないので、問題を解決するまでは「死んでも死にきれない」これが今年の抱負です。橋下知事をやっつけるまでは死んでも死にきれません。

平井　2月議会が大きな勝負となります。移転の予算をつけさせない点も含めて取り組みを強めていきます。府民の会は2月12日青少年会館で集会を開催します。労働組合としても全力をあげてがんばります。本日はありがとうございました。

鳥越 信（とりごえ　しん）氏

1929年12月4日、神戸市生まれ。児童文学に関する賞を多数受賞。「鳥越コレクション」と呼ばれた約12万冊の児童書・研究書が大阪府に寄贈され、大阪国際児童文学館が開館。鳥越氏は総括専門員となりました。現在は大阪市内に在住。国際児童文学館を守るため奮闘中。

女性部が時短年賀はがきを提出

今年こそ 労働時間の短縮を

女性部は、時短に対する切実な声を知事に届けようと毎年、時短年賀はがきを提出し続けています。今年は人事委員会委員長にも提出しました。

07年府人事委員会勧告で公民格差が19分、時短を検討するよう勧告されたこと、また、08年国の人事院勧告では労働時間7時間45分、15分の時間短縮がだされました。08年の府の人事委員会勧告では「国に遅れることのないように」と意見が出され、さらに閣議決定がされる中、府当局は秋季年末闘争で「意見交換していく」と回答しました。早々に意見交換の場を求めていきましょう。

思いがギュウっとつまった時短年賀はがきから

たかが15分、されど15分。給与を強行に減らされ時短もかなわずではますますやる気はなくなる一方です。

小学校低学年のこどもがいるAさん

「学校から21時までには寝かすように」といわれているがとてもできない。せめて15分でも早く帰れたら…

毎日何時間残業させたら気がすむのでしょう…ゆとりある看護がしたい！

青年部役員紹介

府職労文化祭で華麗なピアノさばきを「魅せた」堀野英昭さん（本部青年部副部長・砂川厚生福祉センター勤務）を紹介します。

「判断に迫られたときは原点に立ち返る」が私のモットー

先日、私の出身大学の広報課からインタビューを受けて、大学のホームページに私の仕事についての記事が掲載されました（左記）。

このことは、私が社会人になっての指針になっています。

私は、知的障がい者の施設に勤めていますが…一つの寮が、今年の3月いっぱいでなくなります。

4月からは、新たな出会いを楽しみにしつつ、日々、仕事に組合に全力で取り組んでいきたいと思います。

利用者へのサポートで心がけていることは、相手を思いやり、相手の気持ちに寄り添うことと、常に利用者の視点に立つということです。どのようなサポートが良いのか判断に迷うときもありますが、そのときは『利用者の視点に立ち、何が自立に結びつくか』という原点に立ち返ることにしています。支援がすぐに実を結ばないときもありますが、そのような時は中長期的な視野に立って支援を進めていくようにしています。

広げよう 9条の会

今年も平和広げる取り組みを

けんぷく九条の会

昨年、ほけんしょ九条の会と共催で元全日本視覚障害者協会会長の藤野高明さんを招き、講演会「未来につなぐいのち」を開催しました。平和を考える時に憲法九条と二十五条に加えて、「幸福追求権」である憲法十三条に触れたこと、「事実を知ること、想像力をもって生きること」が大切であるなど、藤野さんのメッセージは、福祉の現場で働く者にとって、心にずしりと響くものでした。けんぷくでは、オリジナルの「九条達磨シール」も作成。今年も平和広げる取り組みをすすめます。

「手元に9条を」を合言葉に

どけん☆どげん9条の会

昨年12月19日に「発足1周年のつどい」を開催し、そこで2009年の行動を確認しました。また、本会では、マウスパットを作成し、職場や家庭から広く9条を守る声を広げていきたいと思います。「手元に9条を」を合言葉に、身近に憲法9条を感じていただき、その大切さを幅広く訴えていけたらと思います。

また、春先の気候のいい頃に大阪の戦歴めぐりを計画し、ほかの9条の会とも交流ができるようにしていきたいです。

▼どけん☆どげん9条マウスパット